

緑の相談コーナーだより

NO. 330 2012. 12. 1発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “サザンカ” (山茶花) ～冬枯れの中に華やぎを感じさせる花～



サザンカ
Camellia sasanqua
Thunb. ex Murray

サザンカは、ツバキ科ツバキ属の日本固有の種で、九州、四国およびその周辺の島々に多く自生し、沖縄にまで分布します。やや内陸の丘陵に多く、通常はネズミモチやクロキなどとともに照葉樹林の低木層を形成しますが、ときに海岸の近くにも生える常緑の小高木です。野生株は一重で、“雪のように白い冬の花”というイメージですが、ピンクや赤色のもの、八重咲きのものなど100種ほどの園芸品種があります。因みに岩見沢の室内公園「色彩館」のサザンカは、ピンクの八重咲き種で、今月には満開になりそうです。

サザンカはヤブツバキの樹を小振りにしたような葉形と樹形をしていますが、見分けるのはそう難しいことはありません。葉の表と裏の主脈上と葉柄に短毛があり、若枝にも毛が生えているのはサザンカで、いずれも無毛なのはヤブツバキです。花もヤブツバキに似ていますが、花弁も雄しべも一体になって合着するのは基部だけで、それぞれが離れてついているため、花が終わると花弁や雄しべはばらばらに落ちます。しかし、ヤブツバキは合弁花なので花弁の下部が筒状であり、花後、花びらも雄しべも一体となって抜け落ちます。ヤブツバキが北は青森県まで自生しているのに対し、サザンカは南の方に多い植物で、沖縄県の西^{いりおもて}表島に及びます。しかし、意外に寒さにも強く、東北地方でも生け垣などとして用いられています。

サザンカの園芸化は、江戸の初期にはすでに始まっていたといわれ、各地の寺院や名家などには樹齢 300 ～ 400 年の紅花や桃色花の古木が見られたようです。しかし、これらの江戸山茶花は、幕末から明治の動乱期に多くが失われてしまいました。これ

を惜しむ人の尽力により、辛くも 95 種が集められ、埼玉県安行の皆川家に貴重なコレクションとして現在も保存されているそうです。また近年、東海地方や長崎県などで、多数の優秀な花や古木も発見されております。

植物名の由来ですが、漢名の^{さんさくわ}山茶花から、サザンクワに転訛したといわれます。しかし、「山茶花」は中国ではヤブツバキのことであり、中国でサザンカは「茶梅」と書きます。また別名を^{こつばき}小椿、^{ひめつばき}姫椿、^{しろつばき}白椿とも呼ばれます。

サザンカの用途ですが、庭木、生け垣、盆栽のほか、材は気乾比重が 0.9 ～ 0.93 でツバキよりやや重硬であり細工物などに用いるほか、種子油をさざんか油としてツバキ同様、食用や整髪用などに使われます。

山茶花にあるは^{みぞれ}霽の降る日かな 河東碧梧桐



バラ園

公園だより



いよいよ師走を迎えましたが、今年の岩見沢は年明けからの寒波と大雪、そして夏の猛暑、秋の残暑と大雨による水害などもあって、自然災害に見舞われ殊更厳しい1年であったように思われます。このため、園芸家の皆さんは、これらの対応に追われて大いに気をもんだ年でしたね。今月のバラ園は、越冬準備の仕上げと合わせ、来年度のバラサミットに向けた、リニューアルの工事が忙しく続けられており、年内は工事車両なども出入りして、巷と同じに喧騒が続いています。新年を迎える頃には、工事も一段落し、いつもの静寂の季節がやって来ることと思います。野外の散策を楽しんでおられる方々には、大変ご迷惑をかけておりますが、もう少しの間お待ち下さいますようお願いいたします。

♥ 今月のバラ園からの一口メモは、バラの利用法・ドライフラワーの作り方についてです。バラの花は、ジャスミン、スズランと共に香りの3大花といわれます。したがって、乾燥してもバラとすぐ分かる特有の芳香が残ります。ドライフラワーにすることによってバラを更に長く楽しんでみましょう。ドライフラワーにするときは、満開に近いバラの花を4～5本切り口で束ねて、乾燥した部屋の天井近くにつるして陰干しにします。湿度が高いとカビがしやすいので、できるだけ広げてやるのが肝心です。また、花だけを乾かすには、密閉できる容器の中にシリカゲルの粉末を入れ、この中で花を乾かすと色や形もそのままに近く残すことができます。

室内公園色彩館では、今月もリニューアルの工事が行われていますので、ご迷惑をお掛けしますが、年末まで閉館です。

南国温室では、かんきつ類の実が色づき、ゴクラクチョウカの花が咲いてきました。今月も無料開放しておりますので、ご自由に南国情緒を楽しんで下さい。

相 談 日 記

問 ユキヤナギは、原産地が日本ということもあり、土質をあまり選ばず比較的どこでもよく育つと聞き、我が家の庭の低みに植えてみました。ところが、ほかの紅葉樹に比べ、ユキヤナギだけが、ごく早い時期から紅葉してしまいました。幹や枝の伸びも悪いようで気になります。これらの原因として考えられることは何でしょうか？また、治療法などがあれば知りたいのですが！

答 枝元を少し掘って、根の状態を調べてみましょう。白くて光沢のある糸状のものがついていたら、白絹病の疑いがあります。白絹病におかされると、地際部が腐敗して褐色から黒色に変わります。さらに腐敗が進むと、根や地際部に白い絹糸のような菌糸がまとわりつき、白や褐色のあわ粒のような菌核も見られます。このように、白絹病にかかると葉や枝が弱るため、紅葉が早くなってしまうのです。

本来、ユキヤナギは乾燥にも多湿にも強く、育てやすい樹木なのですが、つねに水はけが悪い土で栽培すると、白絹病にかかりやすくなります。この病原菌は、高温多湿で酸性の土壌を好みますので、夏期の雨が多量に降った後などに、特によく発生します。また、水はけの悪い土のほか、何年も同じ場所で栽培していると、かかりやすくなります。

治療と予防のポイント バケツなどにベンレートなどの殺菌剤を入れ、根を30分ほど浸し、根部を消毒します。その後、日当たりや水はけのよい場所に植え替えましょう。病原菌は、地表から5 cm程度の比較的浅い部分に生存しているので、植え替えた後の土は、天地返しを行って菌核を地中深く埋めてしまえば死滅します。また、同じ場所で何年も栽培していると病虫害が多発するので、可能であれば植え替えることも効果的です。植え替えることができない場合は、ベンレートなどの殺菌剤を株元にたっぷり散布します。

予防法としては、菌の発生しにくい土壌で栽培することです。植え替えに適している土壌は、水はけがよく、保湿性があり、腐植質に富んだ土壌です。植え付けに当たっては、水はけのよい場所を選んで、植え付け前に天地返しを行い、しっかり殺菌しておきましょう。



クリスマスの頃にお似合いの花～ポインセチア 花言葉 情熱的な恋



クリスマスが近づくと、冬の切り花や鉢花として、好んで用いられるポインセチアは、メキシコ原産のトウダイグサ科ユーホルビア属の非耐寒性常緑低木です。花のように着色する部分は苞葉^{ほうよう}と呼ばれ、花のすぐ下につく葉です。赤く染まるものやピンク、黄色、白、これらの複色など、最近では

いろいろな品種が出回っています。ポインセチアの名前は、アメリカに初めてこの花を導入した、元駐メキシコ大使のPoinsett氏に因んでつけられたものです。購入する時は、葉が下からしっかりついていて、枝や葉の傷みのないものを選びましょう。日光が不足すると下葉が落ち、みすばらしくなりますので、暖かく日の当たるところで育てるようにします。また、寒風にさらされないように注意することが必要です。生育適温は15～20℃、越冬温度は10℃の環境で管理すると良いでしょう。

なお、この植物は典型的な短日植物ですので、光に当たる時間が12時間以上では開花しません。室内の蛍光灯などにも反応しますので注意しましょう。

12～1月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣ 冬の写真教室

日時 12月 2日(日) 10:00～12:00

講師 ナチュラル写真家 若林 信男 さん 定員 20人 参加料 無料



♣ お正月のアレンジメント

日時 12月 9日(日) 13:00～15:00

講師 中央フラワー協会 伊藤とみ子 さん 定員 40人 材料代 2000円

♣ 庭木・花木・果樹管理の基本

日時 1月 27日(日) 13:00～15:00

講師 緑化相談員(樹木医) 泉 征三郎 定員 40人 参加料 無料

※ 例年12月に色彩館で行っていた、クリスマスのオカリナコンサートは、館内リニューアル工事中のため、今年は中止となります。

編集・発行 北海道グリーンランド(空知リゾートシティ株式会社)

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで